

60  
1964-2024

創立60周年記念  
コンサートシリーズ

PRO  
MUSICA  
NIPPONIA

第242回定期演奏会  
The 242nd Regular Concert

巡りて還り  
その先へ



日本音楽集団  
PRO MUSICA NIPPONIA

2024年  
5月29日(水)

◆19:00開演 (18:30開場)

■会場：豊洲シビックセンター 5Fホール

■主催：特定非営利活動法人日本音楽集団

■助成： 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造事業))  
 | 独立行政法人日本芸術文化振興会

■後援： 公益財団法人日本伝統文化振興財団  
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

■日本音楽集団：<http://www.promusica.or.jp/>

 Facebookファンページ：[promusicanipponia](https://www.facebook.com/promusicanipponia)

演出：田野村聡  
構成：山崎千鶴子  
舞台監督：中島隆

## 創立60周年を迎えて

日本音楽集団は今年、創立60周年を迎えました。14名の創立メンバーから始まり、現在は66名が在籍しております。

この60年間で約300曲もの新作を創り上げ、国内外でのコンサートそして242回の定期演奏会を積み上げて参りました。長澤勝俊・三木稔の音から始まった現代邦楽の灯火は今も煌々と燃え続け、後に続く作曲家そして演奏家たちにより音世界は更なる広がりが続いています。

長きに渡り日本音楽集団を支えてくださっている皆様、そして本日お越しくございました皆様に心からの感謝を申し上げます。

(第242回定期演奏会実行委員会)

### 創立六十周年を迎えての私事

「少年老いやすく学成り難し・・・光陰矢の如し」

時がたつのは早いものですね。

邦楽囃子方の家に生まれ、東京芸術大学邦楽科在学中に、フランスの打楽器アンサンブル(ストラスプール)の東京文化会館でのコンサートに強烈な衝撃を受け日本音楽集団に飛び込みました。

以来五十五年。「現代邦楽」という新たなジャンルに挑戦し続けて来ました。長澤勝俊、三木稔という日本音楽集団の二枚看板の作曲家が織りなす調べに至福の時を過ごし、気が付けば、いつの間にか多くの月日が流れていました。

本日、久々にステージに上がります。

「巡りて還り その先へ」 御ゆるりとお楽しみ下さい。

(日本音楽集団代表 尾崎太一)

## プログラム

### 一、夏の一 日 長澤勝俊 1994年

〔笛〕 芝有維  
〔尺八〕 原郷隆  
〔三味線〕 長井麻江  
〔琵琶〕 久保田晶子  
〔二十絃〕 喜羽美帆  
〔十七絃〕 石井香奈  
〔打楽器〕 富田慎平

1. 序曲
2. トレッキング
3. ほたる狩
4. 筏あそび
5. 終曲

「冬の一 日・パート2」「秋の一 日」につづく、日本の四季シリーズの一つ、夏の部です。

子供の目からみた楽しい夏の一 日の思い出を、笛・尺八・三味線・琵琶・二十絃箏・十七絃・打楽器の合奏にのせて画いてみました。

親しみやすいメロディーとユニークなリズムが邦楽器の独特な音色と一体になって、楽しい夏の一 日をかanaanでて行きます。

(第136回定期演奏会プログラムより 作曲者)

### 二、箏四重奏曲みみらくの島 高橋久美子 2009年

〔箏Ⅰ〕 桜井智永  
〔箏Ⅱ〕 森真理子  
〔箏Ⅲ〕 三宅礼子  
〔十七絃〕 久本桂子

五島列島の三井楽(ミミラク)の島へ行けば、亡き人の顔を見ることが出来る」という伝承があり、それは万葉集や蜻蛉日記にも詠まれている。

かつての三井楽は遣唐使の日本における最後の寄港地であり、交通上の要地であった。と同時に遣唐使の生死の境を定め多くの人々の冥土への旅立ちの場所でもあった。すなわち、この地では誰もが神仏の加護にすがるほか術はなく、生への蘇りを切望し、また死霊の冥福を願ったのである。

このようなことから、生者と死者の行き交う場所とされたのが「みみらくの島」である。

この箏四重奏曲「みみらくの島」では演奏者に響き(魂)を伝え合う役割を担わせ、それぞれの旋律が絶え間なく交差し、時には一体化しながら、あの世ともこの世とも言えない第二の世界「みみらくの島」がステージ上で展開されればと願っている。

(作曲者)

### 三、己-ki-2. 輝 相澤洋正 2019年

〔笛〕	新保有生
〔尺八Ⅰ〕	田野村聡
〔尺八Ⅱ〕	元永拓
〔三味線〕	穂積大志
〔琵琶〕	藤高りえ子
〔二十絃Ⅰ〕	熊沢栄利子
〔二十絃Ⅱ〕	久東寿子
〔十七絃〕	久本桂子
〔打楽器Ⅰ〕	多田恵子
〔打楽器Ⅱ〕	盧慶順
〔指揮〕	苔米地英一

この世界で大きな光を与えてくれている太陽。  
太陽の光と熱のおかげで  
地球上ではたくさんの命が育まれています。  
この地球上全ての命に平等に降り注ぐ温かい光。  
全ての尊い命がこれからも共にずっと輝き続けて  
いきますように。

(作曲家)

### 四、森羅万象 秋岸寛久 2011年

〔笛〕	あかる潤
〔笙〕	東田はる奈
〔箏〕	三浦元則
〔尺八Ⅰ〕	竹井誠・元永拓
〔尺八Ⅱ〕	阪口夕山・田野村聡
〔尺八Ⅲ〕	原郷隆・饗庭凱山
〔細棹三味線Ⅰ〕	柘家七三
〔細棹三味線Ⅱ〕	長井麻江
〔太棹三味線〕	山崎千鶴子
〔薩摩琵琶〕	久保田晶子
〔筑前琵琶〕	藤高りえ子
〔二十絃Ⅰ〕	熊沢栄利子・久東寿子
〔二十絃Ⅱ〕	桜井智永・森真理子
〔二十絃Ⅲ〕	三宅礼子・石井香奈
〔十七絃〕	久本桂子・丸岡映美
〔打楽器Ⅰ〕	富田慎平
〔打楽器Ⅱ〕	山内利一
〔打楽器Ⅲ〕	盧慶順
〔打楽器Ⅳ〕	多田恵子
〔指揮〕	苔米地英一

神を畏れ、祖先を敬い、万物に魂を認め、  
その一員であることを自覚する。  
自然界に生を受け、さまざまな困難に打ち勝ち、  
たくましく生き抜き、その喜びを享受し、歌い上げ、  
そしてまた自然に戻っていく。  
祭りはまさに人間の存在そのものの縮図のように思えてきました。  
自然の驚異の前では人間は小さな存在でしかありませんが、  
それでも皆こんなに強く生きていけるのは  
その精神性の高さゆえではないでしょうか。  
前を向いて歩き続ける人々の後押しができるような、  
そんな音楽を目指しました。  
何かを感じていただけましたら幸いです。

(第203回定期演奏会「祭と祀」にて初演)(作曲家)

### 五、巨火(ほて) 三木稔 1976年

〔笛Ⅰ〕	新保有生
〔笛Ⅱ〕	芝有維
〔尺八Ⅰ〕	竹井誠・元永拓
〔尺八Ⅱ〕	阪口夕山・田野村聡
〔尺八Ⅲ〕	原郷隆・饗庭凱山
〔胡弓〕	木場大輔(助演)
〔細棹三味線〕	穂積大志
〔太棹三味線〕	山崎千鶴子
〔琵琶Ⅰ〕	藤高りえ子
〔琵琶Ⅱ〕	久保田晶子
〔箏〕	三宅礼子・森真理子
〔二十絃〕	山田明美・喜羽美帆
〔十七絃〕	城ヶ崎美保・石井香奈
〔打楽器Ⅰ〕	多田恵子
〔打楽器Ⅱ〕	盧慶順
〔打楽器Ⅲ〕	尾崎太一
〔打楽器Ⅳ〕	富田慎平
〔指揮〕	稲田康

“巨火”。この名は、巨大な焔といった意味です。作者の企画したくかぐら1976>のとの曲として、日本音楽集団の最も大きな編成で書かれました。16人の管絃奏者を4人の打楽器奏者が囲んで演ずる、30分近い曲で、おおよそ3つの部分に分けられます。

第一の部分は“祀り”すなわちリチュアルな、厳粛な雰囲気を持っています。

第二の部分は“遊び”というか、スケルツァンドな部分。

最後はそれが徹底し“祭り”フェスティバルですが、秩父屋台囃子が、笛、打楽器に援用されています。

通常な形での指揮者でなく、上手手前の打楽器奏者が、音頭取りを兼ねるよう作曲されており、二十絃箏もしくは三味線あるいは打楽器が、上演時の状況に応じてソロ的に大活躍するようヴァージョンを分けてあります。

(第123回定期演奏会プログラムより作曲家)

笛  
あか 潤  
遠藤 悠紀 ※  
芝保 有 生  
新孫 有 夢 ※  
竹井 一 誠  
山本 心 ☆

笙  
東田 奈  
三浦 はな

箏  
西原 祐二  
三浦 元 則

尺八  
饗庭 山  
川口 夜山  
阪野 夕山  
田村 聡  
原郷 隆  
測上ラフェル 志  
元永 拓  
米澤 浩  
渡辺 淳

三味線  
今藤 政優 ☆  
杵家 七三  
二代目 貢正  
三山 井江  
長穂 積大  
穂田 弘志  
箕田 司大  
守啓 伊郎  
山崎 千鶴子

琵琶  
久保 晶子  
田原 順子  
藤高 りえ子

箏  
石井 香奈 ※  
伊藤 麻衣子 ※  
岡山 亮子 ※  
木内 麻由子 ☆  
久東 栄利子  
熊沢 智永  
桜井 里美  
佐藤 美春  
島崎 春美 ※

城ヶ崎美保子  
久本桂子  
丸岡映美子  
三宅礼子  
森真明美  
山羽美帆  
喜羽美正子  
渡辺正子

打楽器  
白杵美智代一 ※  
尾崎 太一 香子 ※  
島村 田恵平一  
多田 慎利一  
富田 内慶順  
山内 慶順

指揮  
稲田 康  
菅米 地英一

作曲  
相澤 洋正  
秋岸 寛久  
川崎 絵都夫  
篠田 大介 ※

高橋久美子  
福嶋頼秀

アートマネージメント  
大西愛子 ※

楽器・舞台  
中島 隆

代表  
尾崎 太一

副代表  
米澤 浩

事務局  
中山美穂子

永久名誉団員  
長澤 勝俊  
田村 拓男

(☆印は新入団員  
※印は休団中)  
2024年5月現在

## 賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。  
多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 ◆個人会員10,000円(一口以上)  
◆法人会員30,000円(一口以上)



ホームページにおいても、お申し込み方法など詳しくご案内しております。

【賛助会員】(口数・五十音順)

[法人会員]  
日凸運送株式会社

池内 伸子  
内山 小次郎  
織田澤 康寿  
柿崎 やよい  
佐藤 玲子  
新保 美恵子  
西川 浩平  
福田 暉男

堀 保之  
三宅 一徳  
元永 明希  
元永 美代子  
森 繁美  
山本 福八  
他2名  
個人会員計20名  
(5/8/2024現在)

[個人会員]

友杉 毅  
伊藤 哲彌  
伊藤 美好  
伊藤 憲夫



## 日本音楽集団

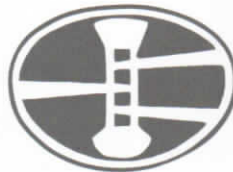
1964年創立。伝統的な日本の楽器である、箏・尺八・三味線・琵琶・胡弓・笛・小鼓・太鼓などの打楽器、笙・箏などの雅楽器による和楽器オーケストラです。和楽器数十名と指揮者による大合奏は迫力満点です。

現在では、定期演奏会を中心に、全国各地での公演、教育機関での音楽鑑賞会、録音・放送・映画・演劇などさまざまな分野で演奏活動を行っています。

海外では、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア、中国、東南アジア、オーストラリア等、31カ国151都市で公演を実施。アイザック・スターン、ヨー・ヨー・マヤ、グヴァントハウス・オーケストラ、ニューヨークフィルとの共演を実現、海外でも高い評価を得ています。

文化庁芸術祭大賞、第2回音楽之友社賞、レミー・マタン音楽賞、モービル音楽賞など、受賞履歴多数。

TOKYO KINKODO



株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 2-19-15

TEL (03) 3792-8481

URL: <http://kinko-do.com>

FAX (03) 3792-8437

E-mail: [tokyo@kinko-do.com](mailto:tokyo@kinko-do.com)

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033

ホームページ <http://www.promusica.or.jp>